

令和 7 年 3 月 3 日

農業経営基盤強化促進法第 18 条第 1 項の規定に基づき、公表します。

豊後高田市長 佐々木 敏夫

市町村名 (市町村コード)	豊後高田市 (44209)
地域名 (地域内農業集落名)	田染小崎地区 (小崎台原・小崎台園・中村間戸)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 6 年 12 月 13 日

注 1 : 「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注 2 : 「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・世界農業遺産に指定されている当地区の不整形、狭小な田んぼが大部分を占め、稲作に大事な水もため池に頼っているのが現状で効率的な農業がかなり厳しい。

・猪や鹿および台風による被害も年をおって増加している。

・現在は地元住民が全力を尽くしてこの田園風景を維持しているが、5年後には耕作者が半減すると思われる。このまま何もせずに手をこまねいていけば当地区の現状維持が不可能ではないかと考えるため今後、行政や耕作者、地区住民で話し合いを行いたい。

(2) 地域における農業の将来の在り方

主要作物である水稻を中心に単収向上に取り組むとともに、地域の中心となる農業生産法人、認定農業者及び認定新規就農者地域内の農業を担う者（目標地図に位置付ける者）を中心に引き続き農地集積を図り、作業の効率化と規模拡大をめざし、耕作放棄地の増加を抑制する。また、現在中心となっている経営体も高齢化しつつあるので新規就農者の確保を進め、将来の地域後継者として育成する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	26.60 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	26.60 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積) 【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方（範囲は、別添地図のとおり）

当該地域の中で農振農用地域に該当し、多面的機能支払制度や中山間直接支払交付金を活用する保全会もしくは集落協定の対象となる農用地を農業上の利用が行われる区域とする。

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
地域の農地利用は、地域内の農業を担う者（目標地図に位置付ける者）である認定農業者等が担いながら、必要に応じて農地集積を進める。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
地域内の農業を担う者（目標地図に位置付ける者）が農地の集積を行う場合は、農地中間管理機構を活用を検討する。
(3) 基盤整備事業への取組方針
既に基盤整備が完了したため、今後、追加的な整備が必要という意向が出た場合は地域内および関係機関と検討していく。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
地域内外から、多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、関係機関と協議を行い、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
一部の農作業は、JAへの委託を必要に応じて、検討していきたい。

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化等	☒ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】 ① 猪や鹿を抑えるための防護柵の点検を年2回行っているが、猪によるフェンスの破壊や近年の台風による柵が土砂に埋もれるなど再生不可能な状態になっている。今後は、フェンスの調達に取り組んでいく。 ② 地域の特産品である「荘園米」において有機入り肥料を使用し、農薬を減らしているので、今後も継続する。 ⑤ 以前より行っている植えた梅や桃の剪定、草刈に加えて、雑草対策としてR6年9月よりヤギ5頭を飼い始めた。 ⑦ 水路、農地、農道法面など世界農業遺産に恥じないよう耕作者、地区住民および荘園の草刈部門で力を合わせて保全、管理につとめる。
--